

Sun Fire™ X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーの Windows オペレーティングシステム インストールガイド

対象機種:
Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4100 M2
サーバー
Sun Fire X4200 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2
サーバー

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェースは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Solaris, et Sun Fire sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. 概要 1

Windows Server 2003 のインストールについて 1

インストールに関する重要な考慮事項 2

サポートされている Windows オペレーティングシステム 3

Sun Fire X4000 シリーズプラットフォームに関する注意事項 3

2. インストール手順 5

3. サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード 7

4. 取得方法の選択 9

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択 10

Windows Server 2003 メディアの取得方法の選択 11

5. 大容量記憶装置ドライバ取得の準備 13

フロッピーディスクの作成 13

Windows を使用したフロッピーディスクの作成 14

Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクの作成 18

フロッピーイメージファイルのコピー	20
Windows を使用したフロッピーイメージファイルのコピー	20
Linux または Solaris を使用したフロッピーイメージファイルのコピー	21
6. JavaRConsole システムの設定	23
JavaRConsole システムの要件	24
JavaRConsole システムのセットアップ	24
7. Windows Server 2003 のインストール	29
インストール要件	29
オペレーティングシステムのインストール	30
8. 重要なシステム固有ドライバのアップデート	39
システム固有ドライバのアップデート	39
オプションコンポーネントのインストール	43
9. RIS イメージへの Sun Fire ドライバの組み込み	47
必要なドライバの確認	47
RIS イメージへのドライバの追加	49
索引	53

はじめに

この『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』では、Sun Fire X4100 サーバーまたは Sun Fire X4200 サーバーに Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

本書の情報は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーと Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバーの両方に適用されます。

関連ドキュメント

Sun Fire X4100 サーバーと Sun Fire X4200 サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX® コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの設定などの手順に関する情報は含まれていないことがあります。このような情報については、次のマニュアルを参照してください。

- システムに付属のソフトウェアマニュアル
- 次の場所にある Solaris™ オペレーティングシステムのドキュメント

<http://docs.sun.com>

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上的コンピュータ出力を示します。	dir を使用してすべてのファイルを表示します。
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上的コンピュータ出力とは区別して示します。	> ipconfig Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名称または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。これを行うには、管理者権限が必要です。 ファイルを削除するには、del <ファイル名> と入力します。
AaBbCc123	ダイアログボックスのタイトル、ダイアログボックス内のテキスト、オプション、メニュー項目、およびボタン。	1. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』、部品番号 820-0744-10

概要

本書は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーと Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバーの両方に適用されます。

この章では、Sun Fire™ X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする前に知っておく必要のある情報について説明します。

注 – この章には、インストール処理中に役立つ重要なガイドラインおよび情報が記載されています。Windows Server 2003 のインストールを開始する前に、必ずこの章の残りの部分に目を通してください。

この章には次のセクションがあります。

- 「Windows Server 2003 のインストールについて」 (1 ページ)
- 「インストールに関する重要な考慮事項」 (2 ページ)
- 「サポートされている Windows オペレーティングシステム」 (3 ページ)
- 「Sun Fire X4000 シリーズプラットフォームに関する注意事項」 (3 ページ)

第 2 章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールを完了するために必要な手順を説明しています。

Windows Server 2003 のインストールについて

Sun Fire X4000 シリーズサーバーには、Windows Server 2003 オペレーティングシステムに付属していないサーバー固有のドライバが追加が必要です。本書の以降の章で、オペレーティングシステムおよびドライバへのアクセス方法、ならびにこれらのインストール方法を説明しています。このインストール手順は、32 ビットおよび 64 ビット両方のバージョンの Microsoft Windows Server 2003 で実行できます。

インストールに関する重要な考慮事項

Sun Fire X4000 シリーズサーバーへの Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な考慮事項について検討してください。

- Windows オペレーティングシステムをインストールするときに、あらかじめインストールされていたオペレーティングシステムを含め、起動ドライブのすべてのデータが上書きされます。
- インストール時に最も注意すべき点は、Sun Fire X4000 シリーズサーバーで使用されているディスクコントローラ用に、大容量記憶装置ドライバをインストールすることです。Microsoft Windows Server 2003 のメディアには、オペレーティングシステムのインストールに必要な大容量記憶装置ドライバが収録されていません。

Windows の場合、フロッピーディスクを介して大容量記憶装置ドライバを取得する必要があります。Windows のインストールプログラムでは、フロッピーディスクドライブ A からのみ、大容量記憶装置ドライバを読み込むことができます。CD や DVD、または USB フラッシュドライブなど、他のデバイスからは、大容量記憶装置ドライバを読み込めません。

Windows Server 2003 のインストール用のドライバを取得するには、次の 3 つの方法があります。

- Sun Fire サーバーに物理的に接続された USB フロッピーディスクドライブを使用します。
- RKVMS¹ を使用して、JavaRConsole² が動作している別のシステム (JavaRConsole システム) の物理フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
- RKVMS を使用して、JavaRConsole が動作している別のシステムのフロッピーディスクイメージファイルにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
- また、次の別の 3 つの方法でインストール用の Windows Server 2003 のメディアを取得することもできます。
 - Sun Fire サーバーに物理的に接続された DVD/CD ドライブを使用します。
 - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの物理 CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
 - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの Windows CD イメージに CD ドライブをリダイレクトします。

第 2 章に記載されているインストール手順に従って、大容量記憶装置ドライバおよびオペレーティングシステムのメディアのインストール方法を選択してください。

1. RKVMS-リモートのキーボード、ビデオ、マウス、ストレージ。ネットワークに接続されたシステムを介して、サーバーのキーボード、ビデオ出力、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクトを可能にします。

2. JavaRConsole-ネットワークに接続されたシステムから実行するリモートコンソール。

注 - RKVMS を使用してインストールする場合は、どの方法でも、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(819-6808) で、インストールに必要なハードウェアのセットアップの詳細を参照する必要があります。

サポートされている Windows オペレーティングシステム

本書の発行時点で、Sun Fire X4000 シリーズサーバーは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Standard Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Enterprise Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Standard x64 Edition (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Enterprise x64 Edition (64 ビット)

サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストは、次の URL で参照できます。

Sun Fire X4100 サーバーの場合

<http://www.sun.com/servers/entry/x4100/os.jsp>

Sun Fire X4200 サーバーの場合

<http://www.sun.com/servers/entry/x4200/os.jsp>

Sun Fire X4000 シリーズプラットフォームに関する注意事項

本書は Sun Fire X4000 サーバーを対象としています。インストール処理は、製品プラットフォームによって異なります。

- 本書では、ツールとドライバの CD とリソース CD は同じ意味で使用されています。リソース CD 705-1438-11 (またはそれ以降のバージョン) には、以前のバージョンの Sun Fire X4000 サーバー用のドライバが収録されています。

インストール手順

本書は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーと Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバーの両方に適用されます。

この章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールするために実行する手順を説明します。

注 – Preboot Execution Environment (PXE) サーバーを使用して Windows Server 2003 をインストールする場合は、[第 9 章の「RIS イメージへの Sun Fire ドライバの組み込み」\(47 ページ\)](#) を参照してください。

CD メディアから Sun Fire X4100 サーバーまたは Sun Fire X4200 サーバーに Windows をインストールする場合は、次の手順をこの順序で実行します

1. [サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード \(第 3 章を参照\)](#)。
2. [取得方法の選択 \(第 4 章を参照\)](#)。
3. [大容量記憶装置ドライバ取得の準備 \(第 5 章を参照\)](#)。
4. [JavaRConsole システムの設定 \(必要に応じて、第 6 章を参照\)](#)。
5. [Windows Server 2003 のインストール \(第 7 章を参照\)](#)。
6. [重要なシステム固有ドライバのアップデート \(第 8 章を参照\)](#)。

この手順を完了すると、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを正常にインストールできているはずです。

サーバー固有のドライバパッケージ のダウンロード

本書は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーと Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバーの両方に適用されます。

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要なサーバー固有のドライバパッケージをダウンロードする方法を説明します。

注 – ツールとドライバの CD (またはリソース CD 705-1438-11 以降) がある場合は、この章をスキップして、[第 4 章](#)に進みます。この CD は、サーバー固有のドライバを最初にインストールするときに使用できます。

次に、Windows Server 2003 のインストールに使用できるサーバー固有のドライバパッケージを示します。

- FloppyPack.zip (LSI 1064 ドライバおよび AMI 仮想フロッピーディスクドライバ)
- InstallPack.exe (すべてのシステム固有のデバイスドライバをインストールするプログラム)
- DriverPack.zip (上級者向けの Windows Server 2003 のシステム固有のドライバのアーカイブで、英語版)。[第 9 章](#)で説明する PXE インストールを実行する場合は、このファイルをダウンロードします。

注 – ドライバパッケージの完全な名前には、ファイル拡張子の前にバージョン番号が付きます。たとえば、FloppyPack_1_1_2.zip のようになります。本書では、わかりやすいように、この番号をファイル名に付けません。

ドライバをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. ドライバのダウンロードサイトに移動します。

Sun Fire X4100 サーバー および X4200 サーバーの場合

<http://www.sun.com/servers/entry/x4100/downloads.jsp>

2. 次のいずれかの手順に従って、ファイルをダウンロードします。

- Windows Server 2003 のメディアをインストールする場合は、インストール中にアクセスできるハードドライブまたはメディアに、FloppyPack.zip と InstallPack.exe の両方のファイルをダウンロードします。
- PXE を使用して Windows Server 2003 をインストールする場合（上級者向け）は、PXE サーバーに DriverPack.zip ファイルをダウンロードします。

注 – ドライバパッケージの完全な名前には、ファイル拡張子の前にバージョン番号が付きます。たとえば、FloppyPack_1_1_2.zip のようになります。本書では、わかりやすいように、この番号をファイル名に付けません。

3. オペレーティングシステムのインストールを開始するとき、ドライバパッケージが使用できることを確認します。第 4 章に進み、取得方法を選択します。

取得方法の選択

本書は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーと Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバーの両方に適用されます。

この章では、インストール用の大容量記憶装置ドライバおよび Windows のメディアの取得方法をどのように選択するかについて説明します。

大容量記憶装置ドライバおよび Windows Server 2003 のメディアの取得方法を選択するには、次の手順を実行します。

1. 「[大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択](#)」
2. 「[Windows Server 2003 メディアの取得方法の選択](#)」
3. 選択した取得方法をメモしてから、[第 5 章](#)に進みます。

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択

Sun Fire X4000 シリーズサーバーに Windows Server 2003 をインストールするために大容量記憶装置ドライバを準備するには、次の 3 つの方法があります。

- **フロッピーローカル**: Sun Fire サーバーに物理的に接続された USB フロッピーディスクドライブを使用します。
- **フロッピーリモート**: RKVMS を使用して、JavaRConsole が動作している別のシステム (JavaRConsole システム) に物理的に接続されたフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
- **フロッピーイメージ**: RKVMS を使用して、JavaRConsole システムのフロッピーディスクイメージファイルにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。

表 4-1 で、システム環境に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

大容量記憶装置ドライバの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
フロッピーローカル	<ul style="list-style-type: none">• 次の Windows Marketplace サイトで「Designed for Windows (Windows 専用)」* と表示されている USB 外付けフロッピーディスクドライブ: http://testedproducts.windowsmarketplace.com/• フロッピーディスク	簡単
フロッピーリモート	<ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4000 シリーズサーバーのネットワーク管理ポートとその接続フロッピーディスクドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム• フロッピーディスク	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーローカルの方法よりもわずかに長くなります。
フロッピーイメージ	<ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4000 シリーズサーバーの管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーローカルの方法よりもわずかに長くなります。

* Windows 専用の USB フロッピーディスクドライブを使用しないと、OS のインストールでドライバがインストールされたように見えても、システムのレポート時に Windows セットアップのグラフィック部分でドライバが見つからず、エラーメッセージが表示されてインストールが正常に終了しません。

Windows Server 2003 メディアの取得方法の選択

Sun Fire X4000 シリーズサーバーに Windows Server 2003 をインストールするために Windows メディアを準備するには、次の 3 つの方法があります。

- *Windows ローカル*: Sun Fire サーバーに物理的に接続された DVD/CD ドライブを使用します。
- *Windows リモート*: RKVMS を使用して、JavaRConsole システムに物理的に接続された CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
- *Windows イメージ*: RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの Windows メディアイメージファイルに CD ドライブをリダイレクトします。

表 4-2 で、システム環境に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-2 Windows Server 2003 のメディアの取得方法

大容量記憶装置ドライブの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
Windows ローカル	なし*	簡単
Windows リモート	Sun Fire X4000 シリーズサーバーのネットワーク管理ポートとその接続 CD/DVD ドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。
Windows イメージ	Sun Fire X4000 シリーズサーバーの管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。

* 使用中のシステムに DVD/CD ドライブがない場合は、USB 外付け DVD/CD ドライブを Sun Fire X4000 シリーズサーバーに接続して、Windows ローカルの方法でメディアを取得する必要があります。DVD/CD ドライブは、Windows Marketplace サイト (<http://testedproducts.windowsmarketplace.com/>) で「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されているものを使用してください。

大容量記憶装置ドライバ取得の準備

本書は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーと Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバーの両方に適用されます。

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要な大容量記憶装置ドライバのメディアを準備する手順を説明します。

第 4 章で選択した方法に応じて、この章で説明する次のいずれかの手順に従います。表 5-1 を参照してください。

表 5-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

取得方法	手順記載セクション
フロッピーローカル	フロッピーディスクの作成
フロッピーリモート	フロッピーディスクの作成
フロッピーイメージ	フロッピーイメージファイルのコピー

フロッピーディスクの作成

フロッピーローカルまたはフロッピーリモートの方法で取得する場合は、Windows のインストールを続行する前に、ドライバを保存したフロッピーディスクを作成する必要があります。

次のシステム設定および素材が使用できることを確認してください。

- フロッピーディスクデバイスが接続されたシステム
- フロッピーディスク
- FloppyPack.zip (このパッケージの入手についての詳細は、[第 3 章](#)を参照)

使用中のシステムに応じて、次のいずれかのセクションの手順に従って、フロッピーディスクを作成します。

- [Windows を使用したフロッピーディスクの作成](#)
- [Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクの作成](#)

Windows を使用したフロッピーディスクの作成

Windows システムを使用してフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. フロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
 - ツールとドライバの CD（またはリソース CD）を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順でファイルをコピーします。
 - a. ツールとドライバの CD を、フロッピーディスクデバイスを搭載した Windows システムに挿入します。
 - b. **FloppyPack.zip** ファイルが保存されている次のディレクトリに移動します。

```
support\drivers\w2k3sp1\FloppyPack
```

注 - ドライバパッケージの完全な名前には、ファイル拡張子の前にバージョン番号が付きます。たとえば、`FloppyPack_1_1_2.zip` のようになります。本書では、わかりやすいように、この番号をファイル名に付けません。

- c. ファイルを Windows システムのディレクトリにコピーします。
 - ダウンロードサイトから `FloppyPack.zip` をダウンロードした場合は、次の手順に従ってファイルをコピーし、解凍します。
 - a. Microsoft Windows ソフトウェアを使用中でフロッピーディスクデバイスが搭載されているシステムで、`FloppyPack.zip` ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - b. Windows エクスプローラを起動します。
 - c. ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。
 - d. `FloppyPack.zip` を選択します。
 - e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。¹
 - f. ファイルを新しい（空の）フォルダに解凍します。

1. 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を解凍します。解凍後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

2. 「**自動作成の実行**」または「**手動作成の実行**」の手順に従って、フロッピーディスクを作成します。

自動作成の実行

この方法では、フロッピーディスクが自動的に作成されます。

自動作成を実行するには、次の手順に従います。

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをシステムのフロッピーディスクドライブに挿入します。
2. **Windows** エクスプローラを起動し、解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
3. **Windows** エクスプローラで、解凍されたファイルのあるディレクトリを開き、`mkfloppy.exe` をダブルクリックします。

注 – アプリケーションが起動しない場合は、`mkfloppy.exe` アプリケーションと同じフォルダにある `README.RTF` ファイルを確認してください。

「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックスが表示されます。



図 5-1 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックス

4. 「**OK**」をクリックします。
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

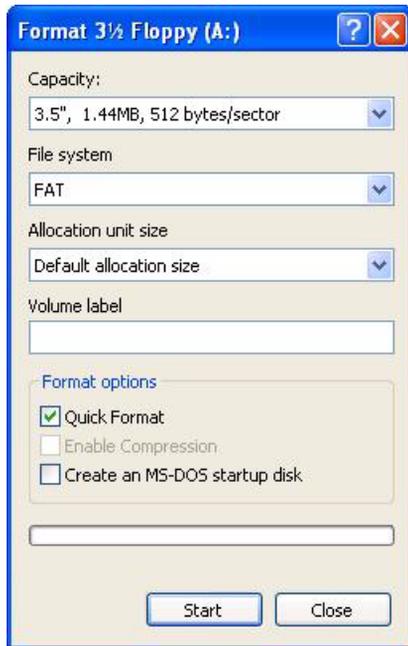


図 5-2 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」 ダイアログボックス

5. フロッピーディスクのフォーマット設定を指定し、「開始」をクリックします。
この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。
6. フォーマットが終了したら、「閉じる」をクリックします。
フロッピーディスクにファイルをコピーしていることを示す「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージが表示されます。

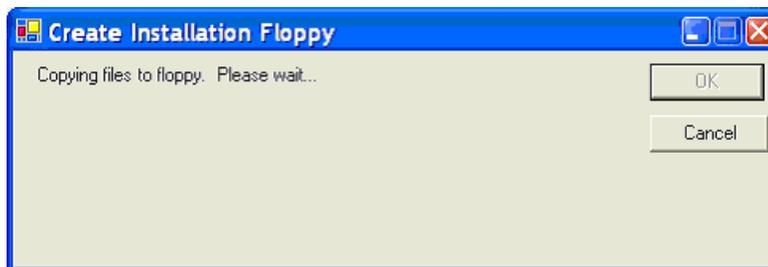


図 5-3 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージ

7. ファイルがコピーされたら、「OK」をクリックします。
大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクが作成されます。
8. 第6章に進みます。

手動作成の実行

この方法では、フロッピーディスクの作成に必要な各手順をユーザーが実行する必要があります。

手動作成を実行するには、次の手順に従います。

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
2. Windows エクスプローラを起動します。
3. フロッピーディスクを挿入したフロッピーディスクドライブを右クリックします。
ショートカットメニューが表示されます。
4. 「フォーマット」を選択します。
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

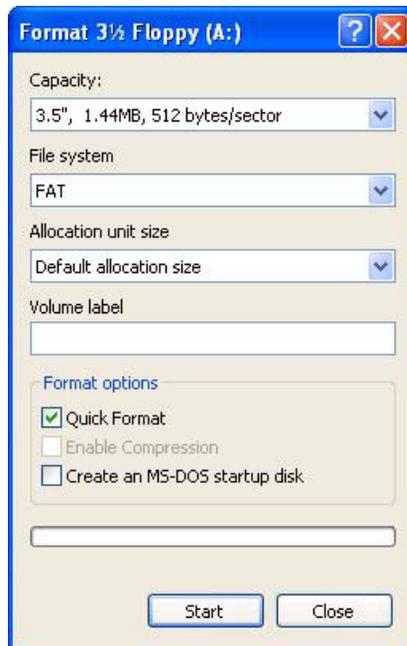


図 5-4 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス

5. フロッピーディスクのフォーマット設定を指定し、「開始」をクリックします。
この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。
6. フォーマットが終了したら、「閉じる」をクリックします。
7. 解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
8. 「編集」メニューの「すべて選択」をクリックします。
9. マウスの左ボタンを押したまま、選択したファイルをフロッピーディスクドライブにドラッグ&ドロップします。²
大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクが作成されます。
10. 第 6 章に進みます。

Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクの作成

次に、Linux または Solaris システムを使用してフロッピーディスクを作成する場合の手順を説明します。

Linux または Solaris システムを使用してフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. フロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
 - ツールとドライバの CD (またはリソース CD) を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順に従います。
 - a. /tmp/files ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp/files
```
 - b. CD をシステムに挿入し、必要に応じて CD をマウントします。
 - c. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の FloppyPack ディレクトリに移動します。

```
% cd /mnt/cdrom/support/drivers/w2k3sp1/FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。
 - d. ツールとドライバの CD から /tmp/files ディレクトリにファイルをコピーします。

```
% cp -r * /tmp/files
```

2. Winzip を使用してファイルを解凍した場合は、ディレクトリ構造が保持されないので、ファイルをドラッグ&ドロップしないでください。

- ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従います。
 - a. /tmp ディレクトリを作成します。
 - `mkdir /tmp`
 - b. 次のいずれかの手順を実行します。
 - ドライバをメディアにコピーした場合
 - i. メディアをシステムに挿入します。
 - ii. メディアをマウントします。
 - iii. 次の例に示すように、ファイルをシステムにコピーします。
 - `cp directory/FloppyPack_1_1_1.zip /tmp`
directory には、FloppyPack.zip ファイルをコピーしたメディア上のディレクトリを指定します。
 - ファイルを直接システムにダウンロードした場合
 - i. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
 - ii. 次の例に示すように、ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。
 - `cp directory/FloppyPack_1_1_1.zip /tmp`
directory には、FloppyPack.zip ファイルをダウンロードしたシステム上のディレクトリを指定します。
 - c. /tmp ディレクトリに移動します。
 - `cd /tmp`
 - d. FloppyPack.zip ファイルを解凍します。
次に例を示します。
 - `unzip FloppyPack_1_1_1.zip`
これによって、新しい files ディレクトリが作成されます。
 - 2. files ディレクトリに移動します。
 - `cd /tmp/files`
 - 3. 書き込み可能なフォーマット済みフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
 - 4. フロッピーディスクをシステムにマウントします。
使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。
Solaris の場合:
 - `volcheck`Linux の場合:
 - `mkdir /mnt/floppy`
 - `mount /dev/fd0 /mnt/floppy`

5. files ディレクトリのファイルおよびフォルダをフロッピーディスクにコピーします。使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。

Solaris の場合:

```
% cp -r * /floppy/floppy0
```

Linux の場合:

```
% cp -r * /mnt/floppy
```

6. 第 6 章に進みます。

フロッピーイメージファイルのコピー

フロッピーイメージの方法で大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、この手順に従います。

まず、JavaRConsole システムでドライバファイルが適切に動作することを確認してください。システムは、ドライバのダウンロードサイトからダウンロードした、またはツールとドライバの CD（またはリソース CD 705-1438-11 以降）に収録されている FloppyPack.zip ドライバパッケージにアクセスする必要があります。パッケージのダウンロードについては、「[サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#)」で説明しています。

JavaRConsole システムで実行中のオペレーティングシステムに応じて、次のいずれかの手順を選択します。

- [Windows を使用したフロッピーイメージファイルのコピー](#)
- [Linux または Solaris を使用したフロッピーイメージファイルのコピー](#)

Windows を使用したフロッピーイメージファイルのコピー

Windows システムを使用してフロッピーディスクのイメージファイルを作成するには、次の手順に従います。

1. ドライバファイルを準備します。
 - ツールとドライバの CD（リソース CD）を使用してフロッピーパッケージにアクセスする場合は、次の手順に従います。
 - a. CD を JavaRConsole システムに挿入します。
 - b. 次のディレクトリに移動します。

```
support\drivers\w2k3sp1\FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。

- ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従ってファイルをコピーし、解凍します。
 - a. FloppyPack.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - b. Windows エクスプローラを起動します。
 - c. ダウンロードしたファイルを保存した一時フォルダに移動します。
 - d. FloppyPack.zip を選択します。
 - e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。³
 - f. 解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
- 2. image フォルダに移動します。
- 3. インストール中に使用できるシステム上のフォルダに floppy.img ファイルをコピーします。
- 4. floppy.img ファイルの場所をメモしてから、第 6 章に進みます。

Linux または Solaris を使用したフロッピーイメージファイルのコピー

1. ドライバファイルを準備します。
 - ツールとドライバの CD (またはリソース CD) を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順に従います。
 - a. JavaRConsole システム上に /tmp/files ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp/files
```
 - b. CD を JavaRConsole システムに挿入し、必要に応じて CD をシステムにマウントします。
 - c. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の FloppyPack ディレクトリに移動します。

```
% cd /mnt/cdrom/support/drivers/w2k3sp1/FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。

3. 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を解凍します。解凍後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

- d. ツールとドライバの CD から JavaRConsole システム上の /tmp/files ディレクトリにファイルをコピーします。
% **cp -r * /tmp/files**
- ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順でファイルを解凍します。
 - a. JavaRConsole システム上に /tmp ディレクトリを作成します。
% **mkdir /tmp**
 - b. 次のいずれかの手順を実行します。
 - ドライバをメディアにコピーした場合
 - i. メディアをシステムに挿入します。
 - ii. 必要に応じて、メディアをシステムにマウントします。
 - iii. 次の例に示すように、ファイルを JavaRConsole システムにコピーします。
% **cp directory/FloppyPack_1_1_1.zip /tmp**
directory には、FloppyPack.zip ファイルをコピーしたメディア上のディレクトリを指定します。
 - ファイルを直接 JavaRConsole システムにダウンロードした場合
 - i. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
 - ii. 次の例に示すように、ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。
% **cp directory/FloppyPack_1_1_1.zip /tmp**
directory には、FloppyPack.zip ファイルをダウンロードした JavaRConsole システム上のディレクトリを指定します。
 - c. /tmp ディレクトリに移動します。
% **cd /tmp**
 - d. FloppyPack.zip ファイルを解凍します。
次に例を示します。
% **unzip FloppyPack_1_1_1.zip**
これによって、新しい files ディレクトリが作成されます。
 2. files フォルダに移動します。
% **cd /tmp/files**
 3. image フォルダに移動します。
 4. インストール中に使用できるシステム上の場所に floppy.img ファイルをコピーします。
 5. floppy.img ファイルの場所をメモしてから、第 6 章に進みます。
Windows Server 2003 のインストール中にこの場所が必要になります。

JavaRConsole システムの設定

本書は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーと Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバーの両方に適用されます。

この章では、オペレーティングシステムのインストール用に大容量記憶装置ドライバや Windows Server 2003 のメディアを取得するために JavaRConsole システムをセットアップする方法について説明します。

注 - 第 4 章でフロッピーローカルと Windows ローカルの両方の方法を選択した場合は、第 7 章に進みます。

- 第 4 章で大容量記憶装置ドライバまたは Windows メディアを取得する次の方法のいずれか 1 つを選択した場合は、JavaRConsole システムをセットアップする必要があります。
 - フロッピーリモート
 - フロッピーイメージ
 - Windows リモート
 - Windows イメージ

注 - 本書では、JavaRConsole ハードウェアのセットアップに関する詳細な手順は説明しません。詳細については、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(819-6808) を参照してください。

JavaRConsole システムの要件

JavaRConsole が次の要件を満たしていることを確認してください。

- Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムがインストールされています。
- Sun Fire X4000 シリーズのイーサネット管理ポートにアクセスできるネットワークにシステムが接続されています。
- Java ランタイム環境 (JRE) 1.5 以降がインストールされています。
- JavaRConsole システムで Solaris を実行している場合は、JavaRConsole が物理に接続されたフロッピーディスクドライブ、CD/DVD-ROM ドライブ、またはその両方にアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- JavaRConsole システムで Windows Server を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にする必要があります。

注 – この手順では、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(819-6808) の手順に従って JavaRConsole システムおよび ILOM サービスプロセッサがセットアップされていることを前提としています。

JavaRConsole システムのセットアップ

1. Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサの IP アドレスを JavaRConsole システムのブラウザに入力して、リモートコンソールアプリケーションを起動します。

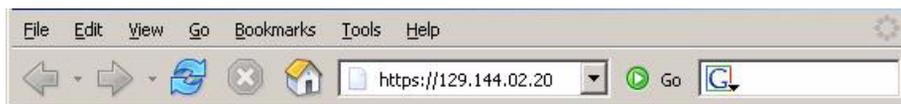


図 6-1 URL の例

「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。



図 6-2 「セキュリティの警告」ダイアログボックス

2. 「はい」 をクリックします。
ILOM のログイン画面が表示されます。

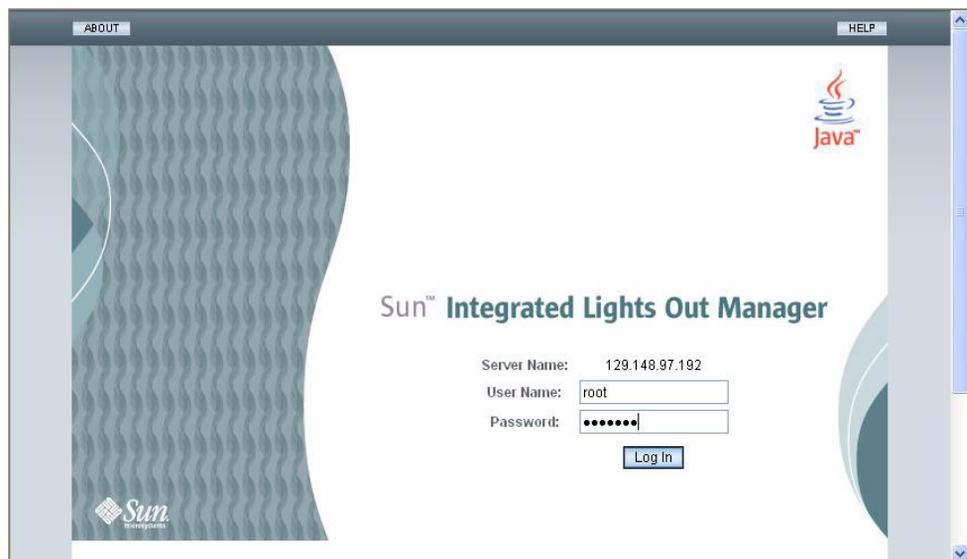


図 6-3 ログイン画面

3. ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In (ログイン)」をクリックします。
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。
ILOM の「Version Information (バージョン情報)」画面が表示されます。



図 6-4 ILOM GUI の「Version Information (バージョン情報)」画面

4. ILOM GUI で「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面が表示されます。

注 – 「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブでマウスモードが Absolute (絶対) モードに設定されていることを確認します。

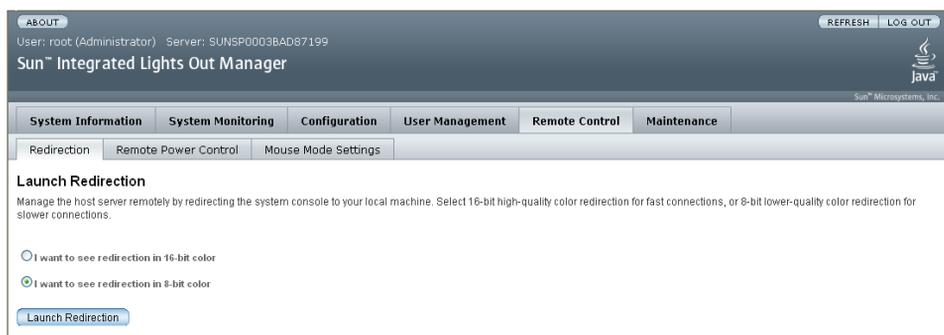


図 6-5 ILOM GUI の「Remote Control (リモートコントロール)」画面

5. 8 ビットカラーまたは 16 ビットカラーをクリックしてから、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックします。

注 – JavaRConsole システムのリダイレクトに Windows システムを使用している場合は、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックした後に、警告がもう 1 つ表示されます。「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されたら、「Yes (はい)」ボタンをクリックします。



図 6-6 「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックス

リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックスが表示されます。

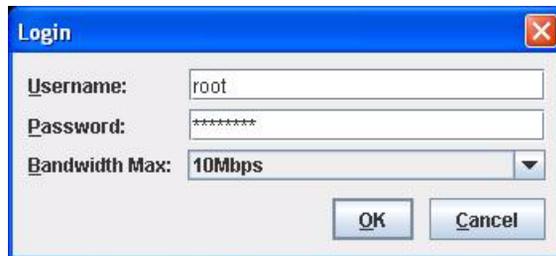


図 6-7 リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックス

6. リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックスにユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。

正常にログインすると、JavaRConsole 画面が表示されます。

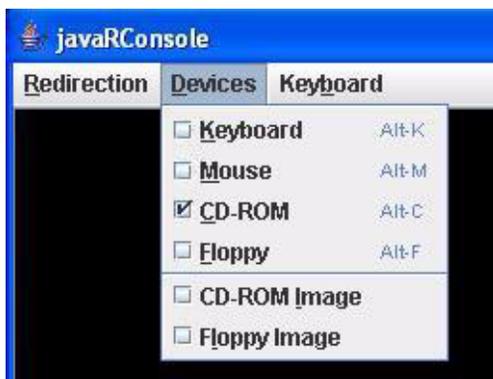


図 6-8 JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニュー

7. 選択した取得方法に応じて、「Devices (デバイス)」メニューからフロッピーディスクまたは CD のオプションを 1 つ、あるいは両方から 1 つずつ選択します。
- フロッピーリモート: JavaRConsole システムに物理的に接続されたフロッピーディスクドライブのコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy (フロッピー)」を選択します。
 - フロッピーイメージ: JavaRConsole システム上に保存された大容量記憶装置ドライブのフロッピーイメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy Image (フロッピーイメージ)」を選択します。
 - CD-ROM リモート: JavaRConsole システムに接続された CD/DVD-ROM ドライブに挿入されたオペレーティングシステムソフトウェア CD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - CD-ROM イメージ: JavaRConsole システム上に保存されたオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。

注意 - CD-ROM リモートまたは CD-ROM イメージのオプションを使用して Windows Server 2003 をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするので、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールにかかる時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。

Windows Server 2003 のインストール

本書は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーと Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバーの両方に適用されます。

この章では、Windows Server 2003 のメディアを使用して、Sun Fire X4100 サーバーまたは Sun Fire X4200 サーバーに直接 Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、必要な条件を満たしていることを必ず確認してください。

すべてのインストール方法で、次の要件を確認してください。

- 本書のここまでの章に記載されている手順をすべて実行しています。
- Sun Fire X4000 シリーズサーバーの適切なコネクタにキーボードとマウスが取り付けられています。フロッピーローカルの方法で大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、背面の USB ポートを空けておいてください。
- オペレーティングシステムのインストールの詳細は、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムのインストールプロセス全体については、このセクションでは説明していません。このセクションでは、Sun Fire X4000 シリーズサーバーに Windows Server 2003 をインストールする場合に該当する手順のみを説明しています。

その他、大容量記憶装置ドライバおよび Windows メディアを取得してインストールする各方法に固有の要件は、表 7-1 を参照してください。

表 7-1 各インストール方法の要件

方法	必要な操作または項目
フロッピーローカル	USB フロッピーディスクドライブをサーバーの背面に接続し、大容量記憶装置フロッピーディスクを挿入します。 注：USB フロッピーディスクドライブをサーバーの前面にある USB コネクタに接続すると、インストールでエラーが発生します。
フロッピーリモート	フロッピーディスクドライブを必要に応じて JavaRConsole システムに接続し、大容量記憶装置フロッピーディスクを挿入します。
フロッピーイメージ	JavaRConsole システムから floppy.img ファイルにアクセスできることを確認します。
Windows ローカル	Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアと DVD-ROM ドライブが使用できる状態にあることを確認します。
Windows リモート	JavaRConsole システムの CD または DVD-ROM ドライブに Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアを挿入します。
Windows イメージ	JavaRConsole システムから Windows Server 2003 のインストールメディアにアクセスできることを確認します。

* Windows Marketplace サイト (<http://testedproducts.windowsmarketplace.com/>) を参照して、USB フロッピーディスクドライブのリストで「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されているものを使用してください。

オペレーティングシステムのインストール

次の手順に従って、Sun Fire X4000 シリーズサーバーに Microsoft Windows Server 2003 ソフトウェアをインストールします。



警告 – Sun Fire X4000 シリーズサーバーのブートディスクに、Solaris オペレーティングシステムがあらかじめ搭載されていますが、Windows のインストールによりブートディスクがフォーマットされ、すべてのデータが失われます。

1. 「インストール要件」のすべての要件を満たしていることを確認します。

2. Sun Fire X4000 シリーズサーバーの電源を再投入します。
BIOS POST プロセスが開始されます。
3. BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP (BBS ポップアップを表示するには F8 を押します)」というプロンプトが表示されたら、F8 を押します。

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
```

図 7-1 F8 のプロンプト

BIOS POST プロセスが完了すると、「Boot Device (起動デバイス)」メニューが表示されます。



図 7-2 「Boot Device (起動デバイス)」メニュー

4. Windows ローカルの方法でインストールする場合は、ここで CD を挿入します。

5. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューから「CD-ROM」を選択します。

注 – ステップ 6 で Enter キーを押した後は、すばやく操作を行う必要があります。手順を続行する前に、[ステップ 7](#)と[ステップ 8](#)を読んで作業内容を理解しておいてください。

6. Enter キーを押します。

7. 「Press any key to boot from CD (CD から起動するにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

注 – このプロンプトは 5 秒間だけ表示されるため、見逃されることがよくあります。このプロンプトを見逃すと、システムを再起動してステップ 3 に戻る必要があります。

Windows Setup (Windows セットアップ) の初期に、画面下部に次のメッセージが表示されます。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver.
(サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押してください)

8. F6 キーを押して大容量記憶装置ドライバをインストールします。

注 – このプロンプトは 5 秒間だけ表示されるため、見逃されることがよくあります。このプロンプトが表示されている間に F6 を押さないと、追加のドライバを指定する画面が表示されず、インストールでエラーが発生します。この場合は、システムを再起動してステップ 3 に戻る必要があります。

追加のデバイスを指定するには S キーを押すように指示する画面が表示されます。

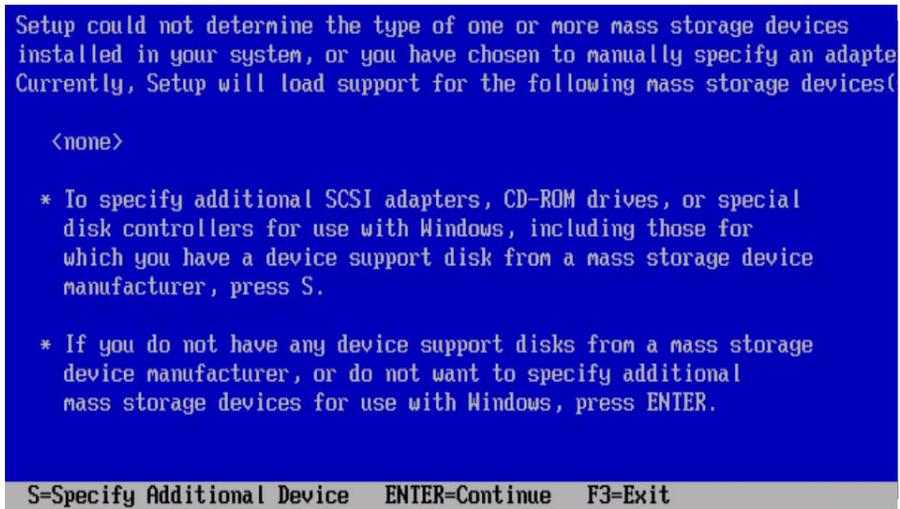


図 7-3 追加デバイスの指定画面

9. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、次のように大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。
 - **フロッピーローカル:** Sun Fire X4000 シリーズサーバーのフロッピーディスクドライブ A で大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクにアクセスできます。
 - **フロッピーリモート:** JavaRConsole サーバーのフロッピーディスクドライブで大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクにアクセスできます。
 - **フロッピーイメージ:** JavaRConsole システムで floppy.img にアクセスできます。
10. S を押して、追加のデバイスを指定します。
使用可能なドライバのリストが表示されます。

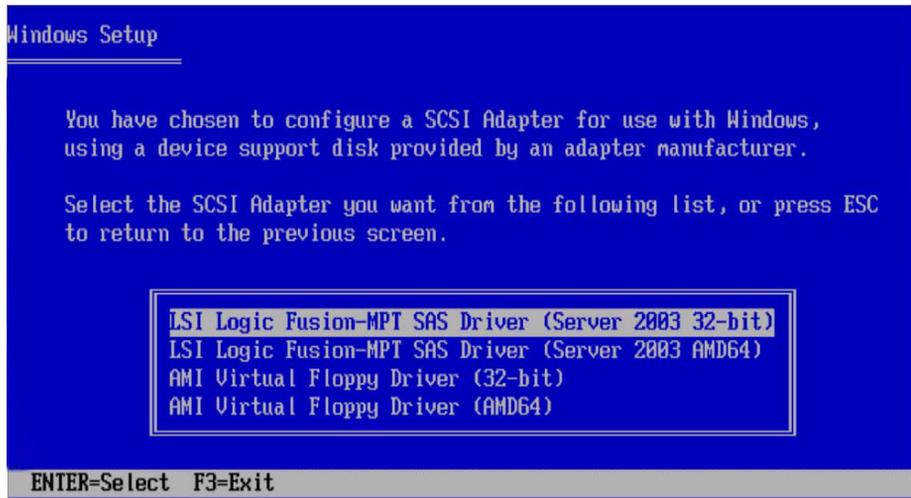


図 7-4 SCSI アダプタの選択画面

11. インストールする Windows のバージョン (Server 2003 32 ビットまたは Server 2003 AMD64) に応じて、適切なバージョンの LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver を選択します。

選択内容を確認し、追加のドライバを選択する画面が表示されます。



図 7-5 追加デバイスの指定画面

12. フロッピーリモートまたはフロッピーイメージの方法を使用して Windows をインストールしている場合は、s を押します。これ以外の場合は、Enter を押してステップ 14 に進みます。

使用可能なドライバのリストが表示されます。

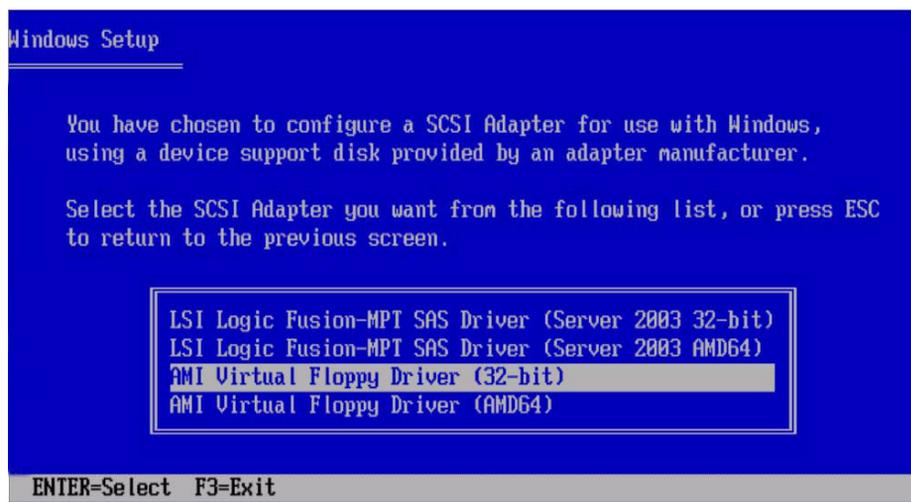


図 7-6 SCSI アダプタの選択画面

13. インストールする Windows のバージョン (32 ビットまたは AMD64) に応じて、適切なバージョンの AMI 仮想フロッピードライバを選択します。

Windows セットアップで、選択した両方のドライバを示す次の画面が表示されます。

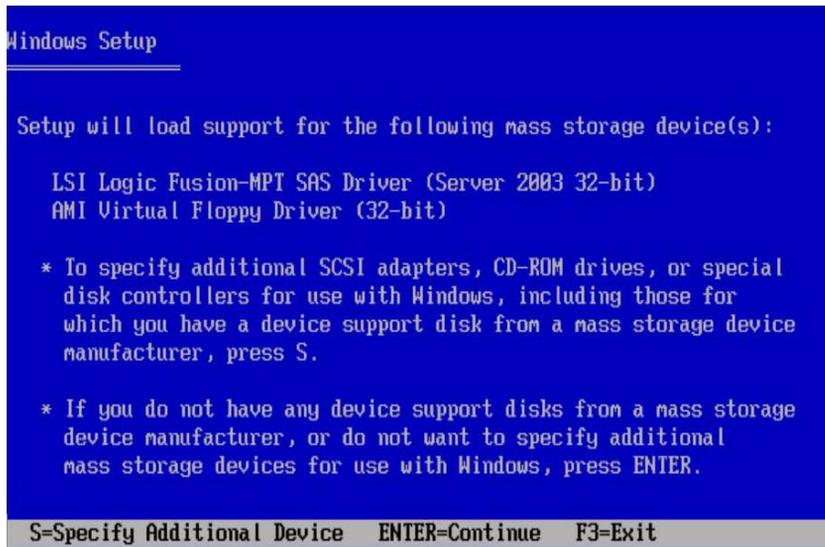


図 7-7 追加デバイスの指定画面

14. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップの起動画面が表示されます。



図 7-8 Windows セットアップの起動画面

15. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップが続行され、次に「Express Setup (高速セットアップ)」または「Custom Setup (カスタムセットアップ)」を選択するための画面が表示されます。

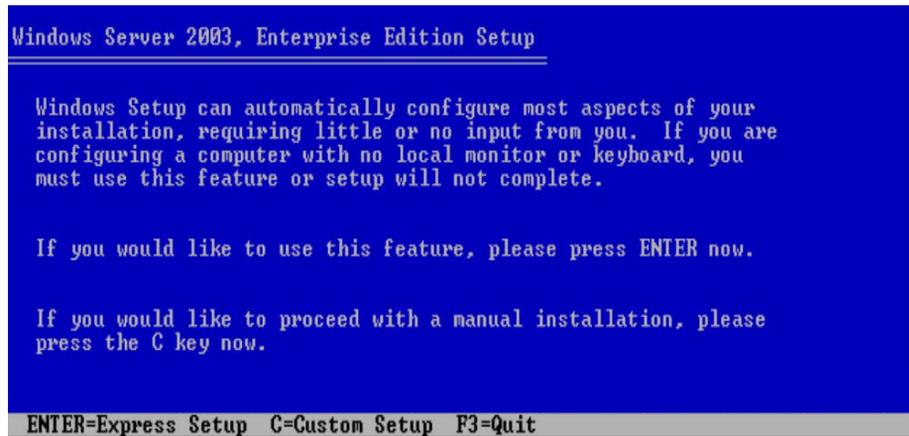


図 7-9 セットアップの選択画面

注 - システムディスクでハードウェア RAID を使用する場合は、「Custom Setup (カスタムセットアップ)」を選択し、手動でディスクのパーティションを行います。ドライブの最後に、64M バイト以上の容量をパーティションで分けせずに残しておいてください。

16. Enter キーを押して「Express Setup (高速セットアップ)」を選択します。

17. 画面上の指示に従って、Windows Server 2003 のインストールを完了します。

インストール中に、システムがリブートされ、次のメッセージが表示されることがあります。

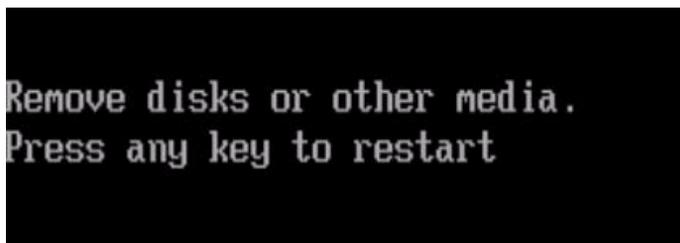


図 7-10 ディスクの取り出しメッセージ

このメッセージが表示された場合は、次の手順に従ってインストールを完了する必要があります。

- a. 選択した大容量記憶装置ドライバの取得方法に応じて、次のいずれかの手順を実行します。
 - **フロッピーローカル**: Sun Fire X4100 シリーズサーバーのフロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出します。
 - **フロッピーリモート**: JavaRConsole サーバーからフロッピーディスクを取り出します。
 - **フロッピーイメージ**: JavaRConsole のデバイスメニューでフロッピーイメージの選択を解除します。
- b. いずれかのキーを押してシステムを再起動し、Windows Server 2003 のインストールを完了します。

18. 「[重要なシステム固有ドライバのアップデート](#)」に進みます。

重要なシステム固有ドライバのアップデート

この章では、インストール済みの Windows Server 2003 をシステム固有のデバイスドライバソフトウェアでアップデートする方法について説明します。この章には次のセクションがあります。

- 「システム固有ドライバのアップデート」(39 ページ)
- 「オプションコンポーネントのインストール」(43 ページ)

この章は、次の準備がすでにできていることを前提としています。

- Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールしています。
- 「[サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#)」(7 ページ) の説明に従って、InstallPack.exe をダウンロードしています。
- InstallPack.exe をすぐに使用できます。

システム固有ドライバのアップデート

システム固有ドライバをアップデートするには、次の手順に従います。

1. InstallPack.exe ファイルを、現在の場所からサーバーのローカルドライブにコピーします。

注 - パッケージ名には、ソフトウェアアップデートパッケージの現バージョンを示す番号も含まれています。

2. InstallPack.exe アプリケーションを起動します。

ファイルが展開され、Sun Fire インストールパッケージのダイアログボックスが表示されます。



図 8-1 Sun Fire インストールパッケージのダイアログボックス

3. 「Next (次へ)」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。

注 – 最新のドライバがインストールされるようにするには、「Platform-specific drivers (プラットフォーム固有のドライバ)」を選択してください。

「Important Note (重要な情報)」ダイアログボックスが表示されます。

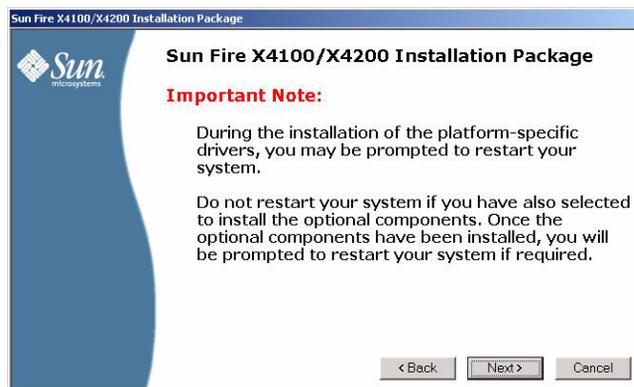


図 8-2 「Important Note (重要な情報)」ダイアログボックス

4. 情報を確認し、「Next (次へ)」をクリックします。

「Welcome to the Sun Fire Installation Wizard (Sun Fire インストールウィザードへようこそ)」ダイアログボックスが表示されます。



図 8-3 Sun Fire X4100/X4200 インストールウィザードダイアログボックス

5. 「Next (次へ)」をクリックします。

「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ダイアログボックスが表示されます。

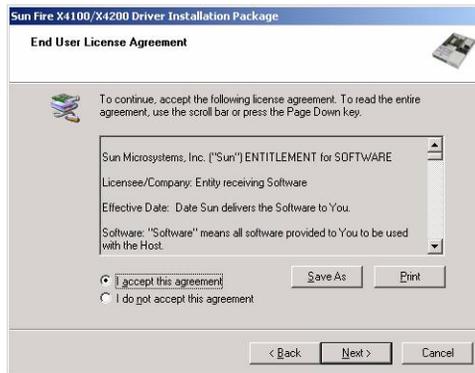


図 8-4 「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ダイアログボックス

6. 使用許諾契約書に同意する場合は、「Next (次へ)」をクリックします。

インストールが続行され、最後にインストール完了ダイアログボックスが表示されます。



図 8-5 インストール完了ダイアログボックス

7. 「Finish (完了)」をクリックします。

「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。



図 8-6 「システム設定の変更」ダイアログボックス

8. ステップ 3 でデフォルト設定を受け入れた場合は、「いいえ」をクリックして「オプションコンポーネントのインストール」(43 ページ)に進みます。

オプションコンポーネントをインストールしない場合は、「はい」をクリックしてコンピュータを再起動します。

AMD Power Monitor のインストールでは、AMD ACPI に準拠したシステムが認証されていないというセキュリティの警告が表示されることがあります。ドライバソフトウェアをインストールする場合は「はい」を、インストールを中止する場合は「いいえ」をクリックします。

オプションコンポーネントのインストール

注 - オプションコンポーネントがすでにインストールされた状態で、再インストールを行うと、そのコンポーネントが再インストールされるのではなく、削除される場合があります。ダイアログボックスの内容を注意深く確認して、オプションコンポーネントのインストールを行ってください。

「Optional Components (オプションコンポーネント)」ダイアログボックスが表示されます。

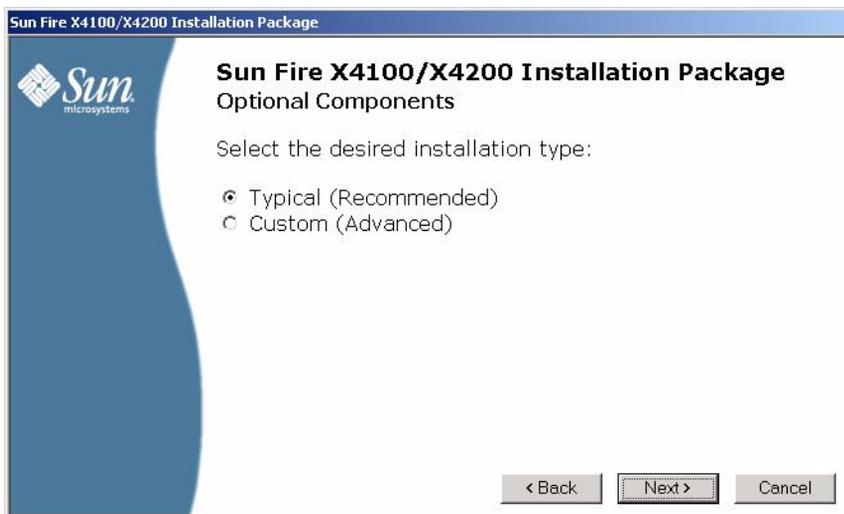


図 8-7 「Optional Components (オプションコンポーネント)」ダイアログボックス

オプションコンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

1. インストールの種類を選択します。

- 推奨設定を使用する場合は、「Next (次へ)」を選択します。

ダイアログボックスの指示に従って、選択オプションコンポーネントを順にインストールします。すべての選択コンポーネントがインストールされると、Sun Fire のセットアップ完了ダイアログボックスが表示されます。ステップ 3 に進みます。

- 推奨設定を変更する場合は、「Custom (カスタム)」を選択して「Next (次へ)」をクリックします。

オプションコンポーネントの選択ダイアログボックスが表示されます。



図 8-8 オプションコンポーネントの選択ダイアログボックス

2. インストールするオプションコンポーネントを選択し、「Next (次へ)」を選択してオプションコンポーネントのインストールを開始します。

オプションコンポーネントの詳細情報を確認するには、「Help Me Choose (コンポーネントの説明)」をクリックします。

ダイアログボックスの指示に従って、選択オプションコンポーネントを順にインストールします。すべての選択コンポーネントがインストールされると、Sun Fire のセットアップ完了ダイアログボックスが表示されます。

注 - 図 8-8 のように、一部のオプションコンポーネントと一緒に署名されていないドライバがインストールされます。そのような場合でも、システムは正常に動作します。署名されていないドライバがインストールされるたびにセキュリティの警告ダイアログボックスが表示されますが、「はい」を選択してインストールを続行してください。

3. セットアップ完了ダイアログボックスが表示されたら、「Yes (はい)」をクリックしてシステムを再起動します。

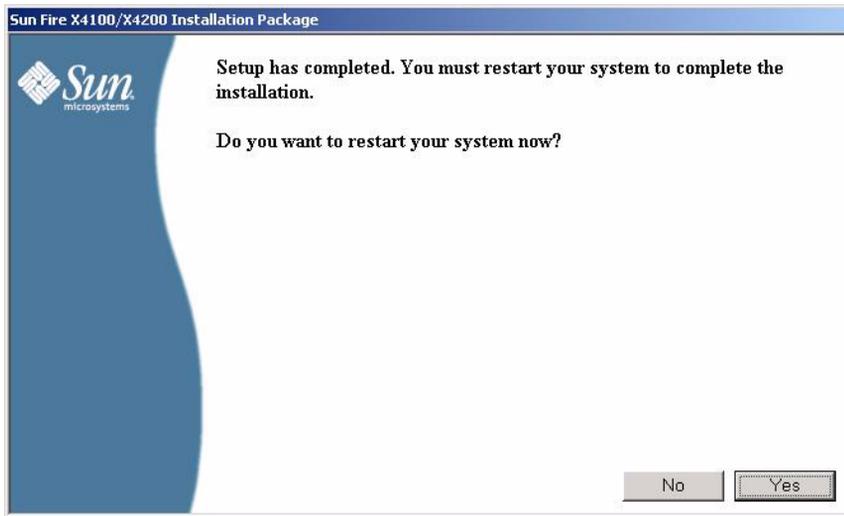


図 8-9 セットアップ完了ダイアログボックス

これで、Sun Fire X4000 シリーズサーバーに Windows Server 2003 オペレーティングシステム、ドライバ、およびオプションコンポーネントのインストールするすべての手順を完了しました。

RIS イメージへの Sun Fire ドライバの組み込み

本書は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーと Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバーの両方に適用されます。

この章は、Sun Fire X4000 シリーズサーバーのドライバパッケージをリモートインストールサービス (RIS) イメージに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

この章は、RIS のチュートリアルではありません。あくまで、Sun Fire X4000 シリーズサーバー固有のドライバを RIS イメージに組み込む方法を説明するガイドです。

必要なドライバの確認

RIS イメージに組み込む必要があるドライバは、オリジナルの Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバー固有のものは「[RIS インストール用 Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバー固有のドライバ](#)」(48 ページ) の表 9-1、Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 サーバー固有のものは表 9-2 を参照してください。

表 9-1 RIS インストール用 Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバー固有のドライバ

デバイス	32 ビット版 Windows Server 2003 に必要	64 ビット版 Windows Server 2003 に必要
AMD-8131/AMD-8132 HyperTransport IOAPIC コントローラ	はい	いいえ
AMD-8111 High Precision Event Timer	はい	いいえ
AMD-8131 HyperTransport PCI-X トンネル	はい	はい
AMD K8 プロセッサ	はい	はい
AMI 仮想フロッピー	はい	はい
LSI 1064 HBA	はい	はい

表 9-2 RIS インストール用 Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバー固有のドライバ

デバイス	32 ビット版 Windows Server 2003 に必要	64 ビット版 Windows Server 2003 に必要
AMD-8131/AMD-8132 HyperTransport IOAPIC コントローラ	はい	はい
AMD-8111 High Precision Event Timer	はい	いいえ
AMD-8131 HyperTransport PCI-X トンネル	はい	いいえ
AMD K8 プロセッサ	はい	はい
AMI 仮想フロッピー	はい	はい
LSI 1064 HBA	はい	はい
NVIDIA nForce4 HyperTransport ブリッジ	はい	はい
NVIDIA nForce4 LPC コントローラ	はい	はい
NVIDIA nForce4 PCI System Management	はい	はい
NVIDIA nForce4 Networking Controller	はい	はい
NVIDIA Network Bus Enumerator	はい	はい

RIS イメージへのドライバの追加

次の手順では、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch は、ドライバが追加される、RIS サーバー上にあるイメージを指します。

- Language はインストールされているオペレーティングシステムの言語です (English など)。
- Dir_name は RIS イメージがインストールされているディレクトリです。
- Arch は、32 ビット版イメージでは i386、64 ビット版イメージでは amd64 になります。

ここでは、RIS イメージにドライバを組み込む方法の例を説明します。

RIS イメージにドライバを追加するには、次の手順に従います。

1. RIS イメージの、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダと同じ階層に、\$OEM\$ フォルダを作成します。
2. \$OEM\$ フォルダ内に、\$1\Sun\Drivers フォルダを作成します。
3. DriverPack.zip の内容を一時的な保存場所に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。
4. RIS イメージのアーキテクチャ (Arch) に基づき、一時的な保存場所から、32 ビットフォルダまたは 64 ビットフォルダの内容を RIS イメージの \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers フォルダにコピーします。
i386 には 32 ビットフォルダ、amd64 には 64 ビットフォルダを使用します。
5. \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\lsi\lsi_sas.sys ファイルを RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダにコピーします。
6. RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch\txtsetup.sif ファイルのバックアップを作成します。
7. RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch\txtsetup.sif ファイルで、次のテキストを可視テキストの最後に追加します。

```
[SourceDisksFiles]
lsi_sas.sys = 1,,,,,3,4,1

[HardwareIdsDatabase]
PCI\VEN_1000&DEV_0050 = "lsi_sas"

[SCSI.load]
lsi_sas = lsi_sas.sys,4

[SCSI]
lsi_sas = "LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver"
```

注 – Sun Fire X4100 M2 サーバーまたは Sun Fire X4200 M2 サーバーの場合は、表 9-2 に示されている M2 ドライバを RIS イメージに追加してください。

8. Microsoft TechNet の技術文書「Creating an Answer File with Setup Manager (セットアップマネージャを使用した応答ファイルの作成)」の方法に従って応答ファイルを作成します。

この文書を手にするには、次の場所を参照してください。

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/78421630-6fcc-4604-a888-bd9c84244a5b1033.msp>

9. インストールに使用する .sif ファイルに、次の変更¹を加えます。

表 9-3 Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーの .sif ファイルの変更

32 ビット	64 ビット
<code>[Unattended] OemPreinstall = yes</code>	<code>[Unattended] OemPreinstall = yes</code>
<code>OemPnpDriversPath="\Sun\Drivers\ amd\8111\hpet; \Sun\Drivers\amd\8131\ioapic; \Sun\Drivers\amd\8131\pcix;\Sun\ Drivers\ami; \Sun\Drivers\lsi"</code>	<code>OemPnpDriversPath="\Sun\Drivers\ amd\8131\pcix; \Sun\Drivers\amd\cpu;\Sun\Drivers\ ami; \Sun\Drivers\lsi"</code>

表 9-4 Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーの .sif ファイルの変更

32 ビット	64 ビット
<code>[Unattended] OemPreinstall = yes</code>	<code>[Unattended] OemPreinstall = yes</code>
<code>OemPnpDriversPath="\Sun\Drivers\ amd\cpu; \Sun\Drivers\amd\8131\ioapic; \Sun\Drivers\nvidia\smbus; \Sun\Drivers\nvidia\ethernet; \Sun\Drivers\lsi;\Sun\Drivers\ ami"</code>	<code>OemPnpDriversPath="\Sun\Drivers\ amd\cpu; \Sun\Drivers\amd\8132\ioapic; \Sun\Drivers\nvidia\smbus; \Sun\Drivers\nvidia\ethernet; \Sun\Drivers\lsi;\Sun\Drivers\ ami"</code>

1. 読みやすいように、OemPnpDriversPath 情報は複数行に分けて表示しています。この情報は、1 行に入力してください。

注 – Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーのみ、次の [ステップ 10](#) の操作を行ってください。

10. すべてのファイルを \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\nvidia\RIS フォルダから RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダにコピーします。
11. RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) を停止してから、開始します。これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの後に Enter キーを押します。

```
> net stop binlsvc
> net start binlsvc
```


索引

J

- JavaRConsole
 - システムの要件 24
 - セットアップ手順 24
- JavaRConsole システムの設定 23

S

- Sun Fire X4000 シリーズサーバー
 - プラットフォームに関する注意事項 3

W

- Windows インストールの準備 1
- Windows のメディア
 - CD-ROM のリダイレクト 28
 - CD イメージのリダイレクト 28
 - インストールの準備 11

い

- イメージファイル
 - Linux または Solaris での作成 21
 - Windows での作成 20
- インストール手順の概要 5

お

- オペレーティングシステムのインストール
 - Windows のメディアの準備 11
 - ガイドライン 2
 - 概要 1
 - 大容量記憶装置ドライバの取得 13
 - 大容量記憶装置ドライバの準備 10
 - 手順 30
 - 手順の概要 5
 - 要件 29

か

- ガイドライン、オペレーティングシステムのインストール 2

さ

- サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード 7
- サポートされている Windows のバージョン 3

し

- システム固有ドライバ
 - アップデート 39
- システムの設定、JavaRConsole 23

た

- 大容量記憶装置ドライバ
 - イメージファイルのコピー 20
 - Linux または Solaris の使用 21
 - Windows の使用 20
- インストールの準備 10
- 取得の準備 13
- フロッピーイメージのリダイレクト 28
- フロッピーディスクの作成 13
 - Linux または Solaris の使用 18
 - Windows での手動作成 17
 - Windows での自動作成 15
 - Windows の使用 14
- フロッピーディスクのリダイレクト 28

て

- 手順、オペレーティングシステムのインストール 30

と

- ドキュメント
 - フィードバック vii
- ドライバ
 - システム固有ドライバのアップデート 39
 - 大容量記憶装置ドライバ
 - 取得の準備 13
 - 取得方法の選択 9
 - ダウンロードサイト 7
 - ダウンロード手順 7

ひ

- 表記上の規則 vii

ふ

- フロッピーディスクの作成
 - Linux または Solaris の使用 18
 - Windows での手動作成 17
 - Windows での自動作成 15
 - Windows の使用 14
- フロッピーディスクの作成、大容量記憶装置ドライバ 13
- プラットフォームに関する注意事項 3

よ

- 要件、オペレーティングシステムのインストール 29

り

- リモートインストールサービス (RIS)
 - ドライバの概要 48
 - ドライバの追加 48
 - 必要なドライバ 47